

英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
 戦略的原子力共同研究プログラム
 事後評価総合所見

評価の概略	
研究開発課題名: 新たな未臨界監視検出器をめざした核分裂高エネルギーガンマ線の測定 研究代表者(研究機関名): 西尾 勝久(日本原子力研究開発機構) 研究期間及び研究経費: 平成25年度～平成27年度(3年計画) 64百万円	
項目	要 約
1. 研究の概要	東京電力福島第一原子力発電所の溶融した核燃料(デブリ)を解体するにはデブリが未臨界であることを保証しながら作業を進める必要がある。本提案は、ウラン235 の熱中性子入射核分裂における1～20MeV までのガンマ線エネルギースペクトルを測定し、6～20MeV領域の核分裂あたりのガンマ線収率を実験的に決定することにより、デブリ解体作業に不可欠となる未臨界監視検出器を開発する。
2. 総合評価	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #cccccc; padding: 5px; margin-right: 10px; text-align: center; width: 30px;">B</div> <div> <p>新たな未臨界監視検出器としてのオルタナティブな方法を提示し、～20MeV γ 測定を実施出来た点については、新たな基盤的データを獲得したという点で成果が認められる。一方で、実用のための未臨界監視装置としては検討すべき点が多く残っており、今後の開発が求められる。</p> <p>S) 極めて優れた成果が挙げられている A) 優れた成果が挙げられている B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんど挙げられていない</p> </div> </div>